第87回
独立展地方巡回展(予定)

大阪展 ➡ 大阪市立美術館
2019年11月19日(火)-11月24日(日)

名古屋展 ➡ 三重県総合文化センター
2020年1月10日(金)-1月13日(月)

福岡展 ➡ 福岡県立美術館
2020年2月26日(水)-3月1日(日)

第88回独立展 予告!

2020年10月14日(水)-10月26日(月)
国立新美術館　搬入日／10月1日(木)・2日(金)

詳しくは独立展ホームページまで！
▶http://www.dokuritsuten.com

独立春季新人選抜展 予告!

2020年3月25日(水)-3月31日(火)

独立ノート第8号

発行日／2019年9月5日
発行者／独立美術協会

〒141-0031 東京都品川区五反田2-13-8-507
Tel.03-3490-5881　Fax.03-6420-0026
E-mail.dokuritsu@ceres.ocn.ne.jp
URL.http://www.dokuritsuten.com

印刷／エーワンネットワーク ・ デザイン／八武崎勢津美

ー編集後記ー

編集スタッフは、独立を支える関係者や出品者の方々と共に、考え、話し合い、独立ノートNo,8を完成させました。この冊子が読者の皆様の心の中で一瞬、“キラッ”と輝いて、独立の息吹を少しでも感じていただけたら幸いです。

独立ノート No.8 2019

ANNUAL DOKURITSU note

87th THE DOKURITSU EXHIBITION

The National Art Center, Tokyo
October16(Wed.)-28(Mon.),2019
10:00am-18:00pm(Fridays 10:00-20:00)

If you show your passport,
admission Free!

独立美術協会小史

【誕生ー初期】(1930－1959) 1930年11月1日、清水登之(43歳)、鈴木保徳(39歳)、川口軌外(38歳)、小島善太郎(38歳)、児島善三郎(37歳)、中山巍(37歳)、鈴木亜夫(36歳)、里見勝蔵(35歳)、高畠達四郎(35歳)、林重義(34歳)、伊藤廉(32歳)、林武(32歳)、福沢一郎(32歳)、三岸好太郎(28歳)という14名の気鋭の画家たちが独立美術協会を設立し、翌年1月には東京府美術館で「第1回独立展」を開催した。
初期段階で野口弥太郎、須田國太郎、小林和作、海老原喜之助、鳥海青児らが会員として迎えられる。第1回展は3,058点、第2回展4,853点、第3回展では5,000点を超える搬入点数があったと記録されており、他の団体を超える「熱狂的な支持」を得ていたことが分かる。この期に独立は近代史に輝く画家集団として確固たる地位を築き、「独立展」は俳句の「季語」になった。

【中期】(1960－1984) 現代の洋画壇でも中心的な活躍を続けている会員が、この頃に新会員となって注目を集め始めた。画壇の芥川賞といわれた安井賞展には、独立所属の画家が多く入選・受賞した。その他昭和会展、安田火災美術財団奨励賞展など多くのコンクールや芸術賞で受賞してきた。また文化庁芸術家在外研修員として選出された画家も多く、活躍が続く。

【現在】(1985－) 独立展以外の活動では、この期も様々なコンクールで受賞したり、文化庁芸術家在外研修員に選ばれる独立所属画家の輩出が続く。また、毎年6月を中心に銀座界隈の画廊で独立展出品者の展覧会が頻繁に開催され、美術界の話題になっている。
一方独立展内部の作品には、抽象作品だけでなく具象作品にも半立体的な作品が現れたり、写実的な傾向の作品やコンピュータを利用した作品も増えて表現がより多様化して行った。
独立展は、こうした新しく生まれようとする優れた才能には時を選ばず評価してきた。また「審査することは、同時に審査されること」という自覚を持って運営し、現在にいたる。
批評家・学芸員・会員によるギャラリートークも好評を博している。

独立ノート第8号　発刊にあたり

国立新美術館で開催される独立展のひとつひとつの作品は、強いメッセージを持ち、大きな渦となって会場を埋め尽くします。
この絵画の持つエネルギーは衰えることを知らず、独立という唯一無二の長い歴史を刻み、さらに引き継がれていくでしょう。
画友の皆さんの一層のご健闘を祈りつつ、この展覧会の発展を楽しみにしています。

Koji Kinutani
事務所委員　絹谷幸二

目次

❖ 独立美術協会小史 ―― 表紙裏
❖ 独立ノート第8号発刊にあたり ―― 1
❖ 独立レジェンド／三岸好太郎 ―― 2
❖ 独立キーパーソン／馬越陽子が語る ―― 4
❖ アトリエ探偵団／松永　久 ―― 6
❖ つぶやき生の声！ ―― 8
❖ 独立ホットニュース ―― 10
❖ 地方展の活動から ―― 12
❖ 独立人－ひとりたつひと－／額田晃作 ―― 13
❖ 第87回独立展地方巡回展予定 ―― 裏表紙
第88回独立展予告

制作:独立ノート編集室
浅見千鶴　阿部栄一　津川めぐ美　佃彰一郎　中村光幸
半那裕子　松原 潤　米田和秀
顧問:絹谷幸二　石井武夫　寺島 穣
表紙:三岸好太郎「海と射光」162.0×130.8cm 1934年 福岡市美術館収蔵

独立ノート DOKURITSU note 2019 No.8

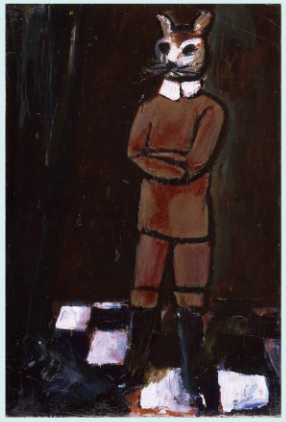
生きた。描いた。愛した。

三岸好太郎　みぎし こうたろう　Kotaro MIGISHI

日本近代洋画史のなかで鮮烈な光彩を放った、三岸好太郎(1903〈明治36〉年～1934〈昭和9〉年)。三岸が画家として活躍したのは、31歳で急逝するまでの10年あまりにすぎません。当時の日本の洋画界はヨーロッパの新潮流を吸収しながら一人歩きを始めたばかりでした。好太郎は彗星のようにあらわれ、生き、描き、波乱の画家人生を疾風のごとく駆け抜けました。

1921〈大正10〉年3月、札幌第一中学校(現・札幌南高等学校)を卒業した好太郎は画家を志し、故郷の北海道から上京、その後東京を転々としながら、絵を描き続けます。1923〈大正12〉年、春陽会展に入選した作品、「檸檬持てる少女」は、初々しいひとりの画家の誕生を世に告げました。そのころ、好太郎は画学生吉田節子(後の画家、三岸節子)と知り合い、1924〈大正13〉年、二人は結婚します。異父兄で小説家、子母沢寛の作品の挿絵を描いたり、節子の兄の援助を受けながら好太郎はたくましく生きました。そして、新たな美術思潮を次々に取り入れながら作風をめまぐるしく転換し、立ち止まることなく自らの表現を追い求めました。作品には多彩なモティーフが次々と配され、やがてそれらは道化のテーマへと発展します。1930〈昭和5〉年、青年画家が中心となり独立美術協会が結成されました。三岸好太郎も創立会員の一人でした。翌年上野の府美術館で第1回独立展が開催された時、好太郎27歳、最年少創立会員でした。

晩年の作品は、蝶と貝殻で埋め尽くされています。それは燃えさかる生命の最期の輝きでもありました。1934〈昭和9〉年、名古屋の旅館で胃潰瘍の吐血に倒れ、4日目に心臓発作を併発、7月1日、31歳の生涯を終えました。



「猫」91.1×61.0cm 1931年
北海道立三岸好太郎美術館収蔵

「飛ぶ蝶」121.2×84.9cm 1934年
北海道立三岸好太郎美術館収蔵

「道化役者」222.2×167.2cm 1932年
北海道立三岸好太郎美術館収蔵

「見物客」(コラージュ) 29.4×38.5cm 1933年
北海道立三岸好太郎美術館収蔵

好太郎が残したもの

孫・三岸太郎　高輪画廊代表2019年記

三岸太郎氏

私は、祖父・三岸好太郎に会ったことはありません。しかし、ずっと一緒に過ごしてきた祖母、三岸節子より、良い話も悪い話も子守歌の様に聞かされて育ちました。好太郎はいつもニコニコしていて話好きで、とても良い父親でした。自作のマリオネットや紙芝居で子供たちと遊んだりしたそうです。しかし夫としては不誠実で常に恋人がいて、ラブレターを見つけられ咎められるなど、節子との喧嘩がたえませんでした。まるで「オーケストラ」という作品の裏側に描いてある悪魔のようです。両面を持ち合わせていたのでしょう。全てが強烈で、不細工な顔、荒唐無稽な発言、早熟した思想、汚い恰好等々、北海道が生んだ奇人であったようです。

上京して間もない頃、好太郎は新聞や生協の配達員の仕事をやりながら絵を描いていました。画学生だった節子はそのころ好太郎と出会いました。祖母の話では、好太郎は周りの同僚に笑われても諦めず、熱心に会いにきたり、関東大震災の直後にはお金を渡しに来たりと、とにかくよく現れたと言っていました。世間知らずでお嬢様育ちの節子は、貧しくとも素晴らしい絵を描く優しい好太郎に惹かれたのでしょう。二人が生活を共にしてから始まったのが、好太郎の芸術論。節子は好太郎に「絵画とは何か」を徹底的に教えられたと文章に残しています。

結婚後、好太郎の絵が少しずつ売れる様になり、節子の兄の援助もあってアトリエ(第一アトリエ)を構えました。しかし、大好物のステーキを食べた翌日は、ご飯に醤油をかけただけの食事など、生活は不安定だったようです。元々好太郎は岸田劉生に傾倒し「春陽会」に第一回展より出品していました。しかし、フランス留学から帰国したばかりの里見勝蔵氏が訪ねてこられ、「独立美術協会を作るから君も参加しないか」と勧誘され、創立メンバーに加わりました。自分の息子(後の黄太郎)をパリと命名してしまうほどのパリに憧れていた好太郎でしたから、二人は毎晩のように憧れのパリの話で盛り上がったようです。

独立展初期の作品は、孤独な道化。肉太の筆致は新しい環境に身を置いた気持ちの表れでしょうか。1932年頃には前衛的作品を、1933～34年にかけては蝶と貝殻がモチーフになりました。そしてその頃からお金も無いのに夢を追い、モダン建築による最先端のアトリエの構想を始めます。

しかし、このアトリエ(第二アトリエ)の完成を待たずして、死が訪れました。自らの語り癖だった「桜の花のようにパッと咲いてパッと散る」という人生でした。

第二アトリエ外観

北海道立三岸好太郎美術館　http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/mkb/

遺族から220点の作品が寄贈され、1967年北海道立美術館・三岸好太郎記念室として発足しました。1983年三岸のアトリエのイメージを設計に生かして現在地に移転。三岸作品紹介を中心に多角的な展覧会を行っています。

〒060-0002 札幌市中央区北2条西15丁目　TEL:011-644-8901

協力:高輪画廊、北海道立三岸好太郎美術館

独立キーパーソン　DOKURITSU - keyperson

馬越陽子が語る

まこし ようこ
Yoko MAKOSHI

1934年 東京生まれ、'56年東京女子大学英文科卒業
1964年 東京藝術大学油画科林武教室卒業
1966年 同大学大学院山口薫教室修了
1968年 独立展／独立賞、'71年独立賞
1973～74年 文化庁派遣芸術家在外研修にて渡欧米
1980年 第23回安井賞展／佳作賞受賞
1994年 第17回安田火災東郷青児美術館大賞受賞
2015年 第71回日本芸術院賞受賞
日本芸術院会員、独立美術協会会員、女流画家協会委員

ー日本芸術院会員ご就任 おめでとうございますー

ありがとうございます。多くの方々に支えられてここまで来られたと思います。諸先輩、芸術院会員の先生方からも励まされ本当に感謝しております。ジャンルを越えて理解いただき、心が通じ合う方々と知り合えたことが大きな喜びです。これからも私の人生から生み出されるイマジネーションを絵に注ぎ込んで、描き続けたいと思っています。

1. 激動の画家人生のはじまり

東京・青山に、弁護士の父とクリスチャンの母のもとに生まれる。まだ歯もはえない赤ちゃんの頃泣き止まぬ時、母が絵の前に連れて行くと泣き止み笑顔になる面白い子供だったと母が話していた。幼少から絵が大好きだったが、中学時代は島崎藤村、高校時代はダンテやシェイクスピアに熱中していたこともあって、東京藝大は父の猛反対で女子大英文科に進学、しかし絵を描きたい熱望は増すばかりだった。当時私は地上とは別の次元に落ち込み、人々は皆私の頭上を歩いていました。私は自分の太陽が欲しかった。その太陽を地上の太陽の輝きに繋ぎたかった。そしてそれは絵を描くことによってしか見る事が出来ないと悟った。どうしても本格的に絵の勉強を始めたかった私はハンストを決行した。猛反対されていたが、父の信頼厚い画家、滞仏30年という原勝郎先生に絵を観て頂くと「藝大の林教室に入るように」アドバイスを受けた。女子大をきちんと卒業するという約束で漸く藝大を目指す許しを得た。以来、厳しいながらも常に私のよき理解者となって下さった父は、人権擁護委員第一号でもあり、死刑判決を無罪とし、占領下の日本で『ノーモアヒロシマ』を法曹界を代表して平和宣言している。

2. ウィリアム・ブレイクとの出合い

卒論のために、英国の詩人キーツの資料を集めに古書店を巡っていた時だった。感じのいい装丁に引き寄せられて、ブレイクの詩画集に出合った途端に全身が激しく揺さぶられるように震え、何かに導かれるような出合いだった。英文での卒論「人間性の解放—ブレイクの信仰について」は、その複雑な世界に歩み行った時、深く入れば入るほど、その象徴の世界、合理を超えた非合理が何の矛盾も感じさせない生命主義、そして周りの潮流から孤立して自己の思想を、詩と絵画に定着していったブレイクの熱烈な人間主義は、その後私の「人間の河」へ続いて行く道標となった。

藝大は4浪を経ての入学だった。浪人中に瀬谷一郎と出会い、教育大理学部を出ていた彼とは深く共鳴し合って学部3年のときに結婚し、親からの援助を彼の要望で断って彼は数学、私は英語を教えていた。大学院修了後、彼は心の病を発症、私は四半世紀の看病の後、最良の理解者であった伴侶を突然失った。その時私は大けがをして絶対安静の病床にあり、枕元にお骨となって帰ってきた彼の生命は、しかし消えてはいなかった。生命は別の形をとって宇宙に遍満しはじめ、私の世界はもはやこの世にとどまらなくなった。芸術は愛であり、生命そのものであることを悟り、ブレイクの言う「万有を貫く生命」を実感しはじめたのである。

「人間の大河－いのち舞う・不死の愛－」
200号 2013年 日本芸術院収蔵

3. 文化庁派遣在外研修、世界への発信

文化庁派遣在外研修員（1973～74年）の女性第一号として、寝袋を担いで欧米の24カ国を巡り、美術館・遺跡群は200か所余りを訪れた。そして研修の最後は、絶対悪の現場ともいえるアウシュビッツ収容所へ行った。心身も凍り付く極寒の2月に単身辿りつき絶望的な心であったが、収容されていた人が描いた片隅の壁画に、極限状態でも想像の翼を馳せて高揚できる「人間の尊厳」を目の当たりにした。ベルリンの壁の崩壊を知った時には現地を訪れて歴史的現場を目撃した。パリ個展（1993年）は夫の遺言でもあった。個展と同時期にあったユネスコ企画『ジャパン・フェスティバル文化間の対話』の洋画日本代表に選ばれたことも重なって好評を博した。不在中の日本では「人間の河は解放を求めて流れる」で東郷青児美術館大賞を受賞。その後ニューヨークのギャラリーから個展のオファーが続く。特に大変なエネルギーを要したのは、北京国立中国美術館にて開催した「日中国交回復35周年記念展」（2007年）だった。3年前、国立中国美術館を訪れた際この壮大な館内に思う存分作品を並べたいと案内の中国芸術文化発展促進会の方に告げた。帰国後、参考資料提出の要請を受けて100点余の作品集を送った。直後、個展承認の思いがけぬ知らせを受取ったので、県立鎌倉近美に作品借り出しを申し入れると学芸員から日本側スタッフは何人と聞かれ、私一人・中国側数人と告げると「あなたは必ず病気になります」と言われ、促進会に「お断りします」と話すと「美術館の審査では35人全員賛成、次いで文科省・外務省・国会も通り日中友好35周年企画で止められない」と言われ覚悟をきめた。展覧会は300号を含む大作を中心に68点を展示。日本人洋画家の第一号でした。中国には“写意”という心意を描写する表現もあって、中国の方々からは大反響を得られた。そして、これまでの作品データを作り中国国営の文物出版社から画集を出版できたことは無上の幸せだった（オールカラー385頁、作品355点掲載）。芸術院賞（2015年）「人間の大河—いのち舞う・不死の愛—」で受賞、昨年芸術院会員に就任。これから再出発の契機として画境をさらに深めたいと思います。

新婚の頃

「人間の大河－我々は何処から来たのか－」200号 2012年

独立展の皆様は、ご自分のイデーを明確にして、オリジナリティを大事に描き続けてくださることを祈ります。（インタビューから）

atelier - TANTEIDAN
アトリエ探偵団

松永 久

まつなが ひさ
Hisa MATSUNAGA

留学中の記念写真より
（フォロロマーノにて）

自然の中から拾いあげた美しい形と気の集約を、水平と垂直の画面上に再構成し、造形性を深めたい。その思いが制作の原点にある連作「相」を発表されている松永久会員のアトリエを探検する。

アトリエ壁面に飾られた金属打ち出しのトルソと
普賢菩薩像の模写（芸大在学中の作品）

文化庁新進芸術家
海外研修制度50周年
記念展出品作品 2017年 S80号

探 道路に面した庭で咲き誇る枝垂れ桜

探 23歳より愛用の特大パレット

探 ガラス面に貼られた習作

探 制作中の200号

探 足元に置かれた
多数の色見本や習作

旧赤坂離宮
天井絵画修復従事
（現迎賓館）
作業の記録写真より

松永 久　まつなが ひさ

1944 愛知県に生まれる
1969 東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了
　　同大学副手（'69～'71）
1975 第43回独立展にて独立賞/鳥海賞受賞
1976 第44回独立展にて児島記念賞受賞（会員推挙'77）
1978 大作12点集中発表（愛知県美術館）
1988 文化庁派遣芸術家在外研修員として渡仏（～'89）
2002 文化庁芸術家在外研修制度35周年記念展（以後40,50周年展）
2004 日本の戦後美術、平成15年新収蔵作品展（愛知県美術館）
　　独立美術協会会員　日本美術家連盟会員

At the 春季 新人選抜展 2019

未来の独立展を担う輝ける原石を見出す春季新人選抜展！
今年は会友及び一般出品者から選抜された188名が都美術館に集結しました
初日限定のインタビューから

人物をこだわって描きたい。
バックの工場風景は意図に反し、
心象風景を表現できれば！と
（前田賞）

志田 翼

俺たち人間が、自然破壊や
大気汚染など罪なことやってゴメン！
•••というのは、丸い月が
四角いと言っているようなものだ
（ヘリクツ）

河合正勝

和紙の張りっぱなしは
美しい！これに私のヘタな絵を
描かない方が、と思うけれど•••
頑張ります

有竹和子

ロープで縛った人間が主題、
しばらくは追究します

小川佳奈子

風景と人物が、
張り付けたようだと言われた。
融合させる設定を考えます

早渕真美

作品に額縁を
付けただけで
気持ちがシュンと
なってしまった

武藤はるか

若くなくたって
やるときゃやるのよと、
今回意地を見せました！
（奨励賞）

山下則子

作品が沈んで見えるのは
白が作用していない！
額の工夫もこれからです

青山美穂

古いシッポが取れないような
空間の平面処理に悩みつつ、
色はいっぱい使いたい

石橋由味

画面の、何もない
大きな空間で、
“ものを言わす作品”
をつくりたい

上林 一

久しぶりの100Fは
勉強になった
大きな顔が好きなので
ピンクから今回黄色で実験、
本展に活かします

井川佳代子

嬉しいはずの受賞は、
大事な人を見送ったあとの•••
今回も親に力を貰ったような
気がしています。感謝！
（奨励賞）

吉永朋子

選抜展は審査がないので•••
落ちないのは怖い！

神原利樹

何気ない身近な事をテーマに
悩みながら模索中ですが
賞を頂くことでほんの少し
自信が持てるようになりました
（優秀賞）

森田慶子

風景画のモチーフが、
このところ抽象方向へ移行、
今回は特に上下の空間に
拘りを持っている

大田原祐二

作品は、作家の体質に、
大胆さと緻密さが
うまく合致すると出来るのさ！
最近は乾燥している絵が多いなー

渡辺貞之

少し期待しては振り払う。
「きた！」予兆ないところ
からの呼名に嬉しさが
跳ね上がった（優秀賞）

大嶌幹

前回までは準会員中心だったが、
今回は会友作品ながら、とても充実していて
見応えがあり、独立の幅のひろさを感じます。
展示も工夫されていて特に一室は
凄く熱気を感じました

瀬川富紀男

画面がブルーの魔術に
かかりすぎているから
注意！と言われた

大津佳代子

豊洲の風景に
人が落ちてくる構図。
人体を描きたいので
クロッキーを続けています

金澤幸代

受賞者の名前を呼ばれたとき、
僕と同じ名前の人かと思った！
制作中の迷いを“これでいいのだ”と
背中を押して貰ったような気がする（前田賞）

本田 崇

エスキースを
100枚描いてから
考えましょう。と言われた

新井貴子

有難うございます
故・前田先生に
師事していたので、
前田さなみ賞が欲しかった！
（奨励賞）

青木祐二

麻布貼って作品を試み
ましたが、青年海外協力隊で
2年間留守にします
帰ってきたら続きを•••
新しい何かを持ち帰るかも
しれませんが

原口風花

みんな真面目に
自分の路線でやりすぎてしまって、
もっと大胆に冒険できるようになれば•••
実験的な崩れた作品があっても！
と思った

久我 修

樹と抽象に揺れる•••
遠慮せずもっと
自由にやれと言われた

田中孝林

嬉しいです！
そろそろやめようか、なんて
考えたこともありましたが、
これを機にまた頑張ります
（優秀賞）

手塚廣子

全部オイルペインティングで
下地に置く色を工夫、
具象からスタートして
抽象でフィニッシュ！

飯村優介

今回は500個くらいの
ブリリアントドールを用意。
いつも展示中に壊れないかと
心配

市川説子

照明が暗い場所だった。
絵の前に立った時、
心の中にシーンと引き込まれる絵を
描きたい

太田喜興

今までおこなって来たことが、
少しずつ整理されてきたような気がする。
もっと色々な角度から見て
自分の形を深めたい（奨励賞）

小畑健治

会員が、一生懸命に
選抜展の運営に携わっているのは
「独立愛！」そして
独立に出品する皆さんを
愛しているからです

浜松繁雄

紙をちぎって貼ったように
描いていますが、
その造形を今一度、考えたい

上杉さなゑ

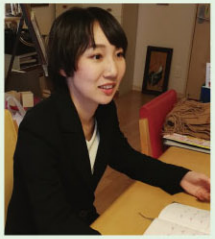
新会員紹介

第86回独立展にて、堀一浩さん、松浦孝彦さん、中原未央さんの3名が新会員に推挙されました。

ー 画家としての試み ー

中原未央

「Lifeーいちご II」130号



幼い頃から紙の上に理想のものを形にする事が楽しみでした。成長すると共に理想が、質や大きさを変化させ、絵画自体をリスペクトする意味での良い作品を描かなければと思う様になりました。自分が作る作品が文化に訴える何かになれたら良いなと思います。純粋に作品の高みを志す独立は、まさにそれらを挑戦できる場です。そういう場に身を置かせて頂きとても嬉しく思います。それと同時にこれから画家として更に前進していきたいと思います。

ー 独立から世界へ！ ー

堀 一浩

「salvation」130号

私は現在、石川県に在住しながら作家活動を続けています。この土地は伝統文化が広く根付いている一方、金沢21世紀美術館という、現代美術の最前線があり、世界から注目されています。しかし、私のようなその中間のようなスタイルはなかなか苦戦を強いられているのが実情です。独立という、既成概念にとらわれることなく平面絵画の可能性を探求し続ける団体を一層アピールしながら、さらに世界へ向けて発信をして行きたいと思っています。

ー 岡山独立と私 ー

松浦孝彦

「それぞれの刻ー想い」130号

私には大切に保管している一つのケースがある。その中には、手紙・葉書メモ等々、150通余りの独立展に対する一人の男の熱い思いが詰まっている。地元岡山の故・香曽我部暁彦先生（16年前にご逝去）は、出品者のことをいつも気に掛けて居られ岡山での巡回展を50年近くも開催された。その折、各地から講師として来られた先生方のご指導は大変勉強になり、私自身の指針となった。これからも香曽我部先生の足跡を忘れぬよう、岡山独立を盛り立てて行きたい。

販売中！

独立美術協会ロゴ入り
ボールペン（500円）

クリックで
LEDライト
点灯

スマートフォン、
タブレットの使用に
最適なタッチペン

絹谷幸二 天空美術館 特別展示

「時空大旅行（タイムトリップ）～理想郷（アルカディア）を求めて」

URL・https://www.kinutani-tenku.jp/

絵の中に飛び込む大迫力の3D映像体験や、壁画をはじめ色鮮やかな絵画や彫刻などで、古今東西、森羅万象を描き出す絹谷ワールド。百花繚乱のイメージ世界の根底には、生命への限りない称賛と、人類への慈しみの視線が溢れている。時空を越えた理想郷へと誘う。

2019年7月3日（水）～12月16日（月）

時間・10:00～18:00
※金・土曜、祝前日は10:00～20:00
（いずれも入館は閉館の30分前まで）

会場・絹谷幸二 天空美術館
大阪市北区大淀中1-1-30
梅田スカイビル タワーウエスト27F

松樹賞

「美術学校―モデルの部屋」150号 1984年

第87回独立展より「松樹賞」の個人賞が設置されます。故・松樹路人氏は北海道に生まれ、1960年から独立美術会員として活躍をし、作品は「詩的な品格と緊張感を持った心象的風景画」と評されている。また武蔵野美術大学教授として多くの後進の育成にも携われた。

映画「ぼくの好きな先生」

主演・瀬島 匠（独立美術会員）

こんな先生に出会ったら生きるのが楽しくなる。絵を描き続ける理由、それは…。

「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」の前田哲監督が、瀬島匠の、東北芸術工科大学での独特な指導の様子や、制作のバックグラウンドに迫る生き様を追ったドキュメンタリー。

主題歌：忌野清志郎（RCサクセション）　全国巡回上映中

地方展から

KANSAI DOKURITSU
関西独立美術

関西独立展は今年で第56回展を迎えるが、実際にはさらに古い歴史がある。1931年第1回独立展発会以降、毎年大阪・京都へ巡回して開催されていたが、年々増加する関西の出品者の団結力によって、大阪で「大阪新洋画協会」がグループ展を催した。会員が審査する公募展「関西独立」となるまでには「新関西美術協会」「関西独立美術クラブ」会友審査の「独創美術」と経緯が19年におよび、1964年に「関西独立美術」と改称されて今日に至っている。関西独立展は、関西2府4県の独立会員が中心となり、一般公募展としてのすそ野を広げ、準会員・会友の協力を得て運営され、大阪市立美術館に於いて毎年春に開催、秋の独立展への足がかりとなっている。近年では四国・中国・山陰・北陸地方など広域に渡り、それぞれの研鑽の場として日頃の交流が基盤となり、さらに発展が期待される。

SAITAMA DOKURITSU
埼玉独立展

埼玉独立展は、2000年(平成12年)に「埼玉県立近代美術館第1展示室」を会場として発足した。埼玉独立展をどのような形にするか、5人の発起人で真剣に意見を出し合い、他県のやり方も参考にして、事務所を立ち上げ展覧会準備に1年を要した。そして、呼びかけに応じた埼玉県の出品者25名が参加し発進となった。設立趣旨は、独立展出品者に限定した勉強会の場を提供すること。全ての方針は総会で決定することを会是とし、平等で風通しの良い会の運営を旨としている。

第15回記念展では「講評会を作品に生かすには」というテーマで、埼玉在住の会員有志によるパネルディスカッションが開催された。2018年からは埼玉独立展における歴代講師及び埼玉在住の会員による賛助出品を企画、第20回埼玉独立展に向けて益々盛りあげて行きたい。

HITORITATSUHITO
独立人 ―ひとりたつひと―

額田晃作 ぬかた こうさく Kousaku NUKATA

個展会場

1 画家・陶芸家、そして歯科医

高校のハンドボール部で死ぬほど絞られた私は、美術満点連続の評価を佐々木節雄先生(国画会)に受け、2年生から美術部にも入る。先輩が大阪一位を続けてきた。その重責が私に廻り一位を奪取することができ、卒後も後輩を絞り、8回全国学校賞も得た。後輩の森村泰昌は、「体育会系の美術部」と言っているが、大歯大で学生指導も同じ様で自分も独立展21回より出品。その評価に飽き足らず陶芸もやり、自分を追い込む手段として個展を47回行う。絵はいつでも下手になれる。

2 エチオピアに13回取材

アフガン・中近東、アフリカを経てエチオピアに至る。この人たちの真摯な生活、宗教、部族固有の文化に感動。作品にモチーフに対する感動が乗り移ると考えを考え13回取材、アフリカで一番発展しつつある彼等の国の近代史を画面に残すことができれば幸いである。

3 襤褸残照「ぼろの美」を著作・出版(2000年)

作家は何を描くか、五感を鋭利に活かすのが当然である。たまたま、誰も見向きもしない美を「ぼろ」に見いだし、蒐集し始め、代々家の女達がほころびを縫い継ぎ、もとの布がわからない程に布を大切にし、そこにこもった情感は、単なる手仕事ではない家族のため、暗い燈のしたで「貧なるかな、美なるかな、母なるかな」。展覧会をやり、襤褸残照(ぼろの美)を出版。瞬く間に世界に広がり「ぼろ」が高騰し、類本が多数出てきた。この本はバイブルという人もいる。アメリカ、フランスで貸出し展覧会をやり、スエーデンの雑誌では、「額田は画家、陶芸家そして歯科医」と紹介し、苦笑いし、少し嬉しく「ぼろの美」を認め、感動を共にしてくれていると感じている。

「ジェネレッタ・マリアム」200号 第69回独立展

1935年 大阪府に生まれる	1953年 独立展初入選
1983年 独立賞	1984年 独立美術協会会員推挙
2000年「襤褸残照」発刊	
2013年 個展「額田晃作 陶芸展」(ギャラリー縄)	
2015年「愛しき人類よエチオピア&」発刊	
2019年 第47回個展「額田晃作油彩展」(近鉄あべのハルカス本店画廊)	

クロッキー

画家、陶芸家、そして歯科医

黒袖白文様茶碗

襤褸布コレクション